

学校番号	17	学校名	静岡南部特別支援学校	校長名	川崎 みどり
------	----	-----	------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	安全で安心な学習環境、生活環境づくりの充実	危機管理マニュアルを理解し、緊急時に取るべき行動が分かっている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の危機管理意識が高く、定期的な訓練、抜き打ち訓練の実施がよい。 ・マニュアルは都度改訂していく必要がある。 ・避難訓練は全員参加が望ましい。
		不良個所の迅速な改善と、物品の在庫状況の確認を行っている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内が清潔に保たれ、定期的な施設改善も図られている。 ・物品の在庫状況を行いながら、防災食も意図的に消費する必要がある。
イ	児童生徒、教職員が自己や仲間を理解し、互いに認め合い、大切にしている学校生活の充実	児童生徒が自分のことに自信をもって取り組み、友だちに関わろうとすることができる	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに関わり合う姿が見られている。リモート交流等の工夫も良い。 ・障害特性からくる難しさを考慮すれば、無理せず継続できることを重視したい。
ウ	生活年齢、的確な実態把握に基づいた授業実践をし、学びの積み重ねがわかる教育活動の実践	児童生徒、一人ひとりの学びの積み重ねを教職員間で共有できる	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個に合った学習が積み重ねられ、共有がなされている。 ・収穫、栽培、調理といった一連の学習活動が有意義だと思う。
		児童生徒が、「わかった、できた、またやりたい」という気持ちで活動し、自分の意思や気持ちを表現している	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・表出への支援を工夫して行っており、意欲を高めている。 ・自己決定や伝わらなかった経験等を考慮するとさらによい。
		実態把握をし、児童生徒一人一人に合ったコミュニケーション手段を取り入れている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個に合ったコミュニケーション方法で支援されている。 ・今後も表出や意思決定を大切にしていって支援してほしい。

様式第5号

エ	教職員が主体的に語り合い、やりがいを感じて取り組む、授業改善や業務改善の充実	「〇〇したい！どうしたらできる？」の問いや考えがある授業を行っている	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の言葉や表情を汲み取ることが難しいが、個人内評価を適切に行い表出につなげていきたい。 ・障害者が行動する際に選択肢をもつことができるようにすることが大切である。
		教職員が授業準備や反省の時間を十分に取、授業改善が重ねられる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りやフィードバックできていることは良い。
オ	地域、関係機関、保護者と連携した体験的学習や表現活動の充実	児童生徒、教職員、保護者、地域の方が、交流をしてよかったと思っている	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や立場を踏まえ、体験学習を取り入れ、充実した学習が行われている。 ・少人数の集団で過ごす児童生徒にとって地域とのつながりは貴重であり、非常時等の際にも支えになるので充実した交流を続けてほしい。 ・センター令和との連携の面で課題もあると思われる。
カ	共に学び、共に育つ交流及び共同学習の推進	児童生徒が、同世代とのかかわりを楽しみ、自分からかかわっている	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・直接交流することで互いに学び合う姿が多く見られていることから、児童生徒の主体性や感じ方を尊重しながら交流を継続してほしい。